

理科シラバス 高校3年

1. 学習の到達目標と評価の観点

	単位数	学科・学年・学級	使用教科書と補助教材
(科目) 化学	4 単位	第 3 学年	・教科書：高等学校化学、高等学校化学基礎（第一学習社） ・資料集：スクエア最新図説化学（第一学習社） ・問題集：セミナー化学基礎＋化学（第一学習社）、化学重要問題集（数研出版） ※スタディサプリの通年講座から「ベーシックレベル化学」を視聴すると、教科書に対応した講座を視聴することが可能。
学習の到達目標	①化学に関連する基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。 ②実験を行い、結果を比較・考察し科学的に探究する力を養う。 ③身近な現象の化学的な理由などに主体的に着目し、科学的に探求しようとする態度と、環境問題解決に寄与する態度を養う。		
評価の観点	科学的事実がどのような仕組みで関わりあっているのか、疑問を持ち、知識を活用し、他者と協働しながら、その疑問を解決しようとする姿勢がある。＜主体性・多様性・協働性＞ 科学的法則や事象について理解を深めるべく、実証したり、それぞれの法則性や事象を比べたり、もしくは互いのつながりや影響を探究したり、自分の考えを発信したりすることができる。＜思考力・判断力・表現力＞ 科学的事象や、実験もしくは観察結果について考察をする際、その資料を読みとるために必要な知識・技能を身につけられている。＜知識・技能＞		

【点数化が難しい課題については、観点別評価とする。】

- A：「十分満足できる」状況と判断されるもの
 B：「おおむね満足できる」状況と判断されるもの
 C：「努力を要する」状況と判断されるもの
 D：未提出，未実施

2. 学習内容及び評価方法

月	単 元	学習のねらい	実験実習・学習のポイント
一学期中間	有機化合物	有機化合物の基本的構造や仕組みを知識として定着させる。	・ エステルの合成、石鹼の合成、アルコールの酸化に関する実験を実施する。 ・ 有機化合物の分離。有機化合物の推定に関する問題が頻出となるので、演習する。
一学期期末	高分子化合物	高分子化合物の基本的構造や仕組みを知識として定着させる。	・ 単元に関する実験を1～2回実施する。 ・ モノマー、ポリマー、ペプチド結合、グリコシド結合などがキーワードとなる。 評価全体の2～3割は各種提出物を含めた平常点とし、考査の点数は7～8割までとして評価をつける。
二学期中間	全範囲総復習	様々な分野の知識を相互に関連させられる思考力を身につける。	・ ここまでで未実施の実験を行う場合がある。
二学期期末	全範囲総復習	様々な分野の知識を相互に関連させられる思考力を身につける	評価全体の2～3割は各種提出物を含めた平常点とし、考査の点数は7～8割までとして評価をつける。

評価の観点及び内容	評価方法（具体例）
科学的事実がどのような仕組みで関わりあっているのか、疑問を持ち、知識を活用し、他者と協働しながら、その疑問を解決しようとする姿勢がある。＜主体性・多様性・協働性＞	実験・実習課題提出
科学的法則や事象について理解を深めるべく、実証したり、それぞれの法則性や事象を比べたり、もしくは互いのつながりや影響を探究したり、自分の考えを発信したりすることができる。＜思考力・判断力・表現力＞	実験・実習課題提出 定期考査
科学的事象や、実験もしくは観察結果について考察をする際、その資料を読みとるために必要な知識・技能を身につけられている。＜知識・技能＞	定期考査